つくしの家だより

No.110　2023．6．1

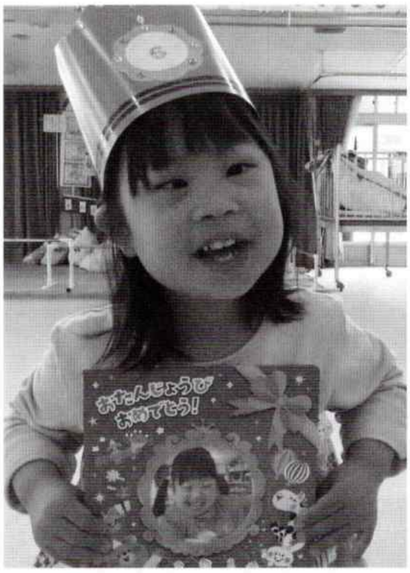
〒421-0522
静岡県牧之原市相良 240－1
(児童発達支援・放課後等デイサービス)
つくしの家
(生活介護事業所)
つくしホーム
☎ 0548－52－2225
事務局　52－0825
FAX　52－1156
e-mail:tsukushihome@aioros.ocn.ne.jp

HP アドレス　http://ichiyoukai.sakura.ne.jp/

心を　ことばに…

栗林　均

新年度が始まって二ヶ月が経ちました。四月に入園した七人のお友達も、お母さんから少しずつ離れて、一人で過ごす時間を伸ばしてきました。ゆっくりゆっくり…つくしの空気の中に溶け込んできてくれたように感じます。「お散歩で輪っかをずっと持っていられました」「オマルでおしっこができました！」「みて～、おべんとう、からっぽで～す！」…こんな声がホールのあちこちから聞こえてくるようになりました。子ども達はここでいろいろな経験をしながら、新しい姿がいっぱい見られてうれしい毎日です。――私達は、子ども達のこんな場面に出会った時、時には不安そうな姿に出会った時、何かを伝えたい時…、日々の生活の中でたくさんのことばを子ども達に投げかけています。以前、見つけたこんな言葉が浮かんできました。



人との　つきあいで　大事なのは
心ですが
もっと大事なのは　ことばです

この言葉を見た時、最初、少し不思議な気持ちがしました。確かに「ことば」は大事ですが、その奥にある「心」の方が本当はもっと大事なんじゃないのかな…、ふとそんな気持ちがしたことを思い出します。そして、何年も前の風景が浮かんできました。それは、つくしの家で特別支援学校の訪問教育を受けている子ども達の三学期の修了式でのことでした。その年は六人の学齢のお友達がいました。学齢のお友達の学習の終わりの式ですが、その頃は、つくしの小さなお友達も一緒に参加させていただいていました。式の中で、学校の先生から一人ひとりにがんばり賞が渡されます。小さなお友達には、学習のお友達の後につくしの担当の先生から賞が渡されます。その時四才だった男の子、がんばり賞をとても楽しみに待っていました。でもなかなか自分の順番がきません。さっきまで座っていたのに、もぞもぞ動きだしそうです。その時、隣りに座っていた先生がかけた声が聞こえてきました。

――「かっこよく、座っていると、もらえるよ」…。その子は、さっきまでいすから立ち上がろうとしていましたが、もう一度、しっかり座りなおして自分の順番が来るまで待っていられました。そしてやっと手にしたがんばり賞をとってもうれしそうに見ていました。そして隣りの先生や周りのお友達にも手を伸ばして見せていました。「かっこよく、座っていると、もらえるよ！」――その言葉を聞きながら、もしかしたらこんな風景もあるのかな？ってその時、思いました。「ちゃんと座っていないともらえないよ！」…。ついかけてしまいそうな言葉です。どちらも同じ思いから出た言葉です。子ども達にこうして欲しいという願う姿も同じです。でも、何かが違うように思います。どちらの方が、子ども達の心にあたたかく響くでしょうか。

――大事なのは　ことばです――

先ほどの言葉をもう一度読み返してみました。ここで出会ったまだ小さな子ども達に、私達の「思い」「心」をどんなことばで届けられるでしょうか…。

（一羊会理事長・つくしの家園長）

～忘れてはならないもの　忘れられないもの～

増　田　　隆

令和五年度、つくしホームは一名の新規利用者さんを迎え二十二名の利用者さんと十四名の職員でスタートしました。昨年度は新型コロナウイルス感染症の流行で二度の休園を余儀なくされました。朝夕の消毒をはじめ、換気や手洗いも怠らず、十分気を付けていましたが、感染が広がってしまいました。行動制限などが緩和されつつありますが、まだまだ油断することなく、感染対策をとってゆきたいと思います。

新年度から二か月が経ち、毎週月・金曜日の二日間利用することになった伊藤早苗さんが、送迎車から降りてきます。笑顔を絶やさず、いつもはきはきとした声でみんなに挨拶してくれて、言葉をかけてくれます。散歩、買い物、パズル、折り紙等、好きな事や集中して取り組めることも多く、いろんなことに興味や関心を示している好奇心旺盛な女性です。カラオケも得意で、唱歌から演歌までジャンルも多彩です。周りの人たちの名前を覚えるのも早く、誰にでも笑顔で話しかけてくれます。まだまだ慣れるまでには時間もかかり、緊張することもあるでしょうが、つくしホームに来てくれたことに感謝し、急ぐことなくゆっくり、ゆっくり、かかわりを続けたいと思っています。

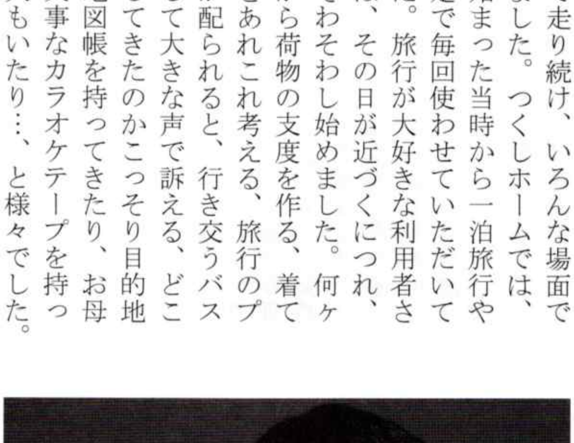
先日、本当に久しぶりに田んぼの畦をゆっくりと歩く機会がありました。いつもは車の中から眺め、あっという間に通り過ぎる風景の中で、何かが動く気配にふと視線を落とすと、もういなくなってしまったのではないかと思っていた「あめんぼ」が群れをなして気持ちよさそうに水面を滑っていました。違う場所に目をやると、可愛い「おたまじゃくし」が尾びれをくねらせながら泳ぎ、カエルの卵も至る所にあります。そこには昔ながら？の懐かしい生き物が生息していました。わずかな幅の川までそのほとんどがコンクリートで固められ、下水やその他の環境も整備された現代ではその数や種類も減少していることは事実でしょう。そして、時の経つのも忘れて、日が暮れるまで自然の中で遊んでいた幼少の頃よりも、倍以上高くなった目線に慣れてしまっていることに気づきました。今の自分のおへそほどの視線で見つめた風景や視点、ゆっくりとしたスピードでの視界を忘れてしまい、本当は見えるものが眼に入らなくなってしまったのかな、と感じました。成長するにつれ、自分の足で走り、ペダルをこぐ自転車よりも動力装置のついた機械に頼り始め、風や季節、匂いを感じた二輪から四輪に乗り出し、時速数十キロの鉄製の箱から眺めるような景色が、いつの間にか本物だという錯覚を起こしていたのではないか、という思いにかられたのです。そして、つくしホームで初めて利用者さんと会った時の、ほんのわずかな仕草に笑い、感動し、一緒に汗を流した時間を、いつの間にか忘れてしまっているのではないかという思いがわいてきました。一緒に毎日を過ごす中で、つい欲が出てきて、もっと何かできるのでは、もっと何かしなければ、と先を急ぎ、評価することを求めていたのではないかと反省しました。技術の進歩は想像以上に早く、膨大な情報がやり取りされ、インターネット環境があれば、画面を触るだけでそれらを得る事が出来ます。人工知能が実用化されつつあるような時代となりましたが、人の心はそこまで変わってはいません。身体を動かし、汗を流す事よりも、無駄を省いて短期間に成果を上げる事が求められるような風潮がありますが、特に利用者さんとのかかわりの中では、前に進むだけでなく、時には立ち止まり、必要なら後戻りすることも大切な事です。支援やかかわりに、無駄な事は一つもありません。便利な時代にはなりましたが、人として大切な事を、どこかに置き忘れているような、そんな気がします。

子供の頃、目の前の川を飛び越えられるかどうかの判断は、まず頭で考え始めるのではなく実際に跳んでみることでした。薄暗い場所にたわわに実るきれいな桃が美味しいかどうかは、色や形で迷うのではなく、

藪蚊に何か所も刺されながらも自分の手で採って食べてみることでした。鬼ごっこや追いかけっこをしていて怖かったのは、転ぶことやけがをすること、ましてや捕まってしまうことではなく、夕暮れが迫り遊ぶ時間が終わることでした。遠足の前日以外、明日の天気はどうだろうかなど、考えても仕方ないことに悩むことはありませんでした。あれこれ思いを巡らせて、考えるだけで色んな事を決めてしまい、支援者の立場でしか考えずに、まずやってみる、行動してみることを後回しにしていないか振り返ることも必要だと思います。ほんの些細なことかもしれませんが、日常の中でも積み重なれば大きなものになってしまうのではないかと危惧しています。車いすを押していても、利用者さんのことを考えているようで実は自分（介護者）の目の高さ、速度感覚で押していて、怖い思いをさせていたのではなかったのか…同じように視覚障害の方を誘導する際、つい自分のペースで手を引っ張るような介助をして、同じような思いをされていたのではないかと思いました。長くつくしホームに居て、いつの間にか忘れてしまったことはないか、振り返ってみることは大切な事だと思います。そして、同じ方が長く利用する場所にありがちな「ここの方のことは誰よりも私たちがわかっている」という偏った思いがないか、今一度基本に立ち返りたいと思います。

今年三月、静岡県ボランティア協会から私のもとに文書が届きました。そこには、「リフトバス運行事業終了のお知らせ」と書かれていました。リフトバスとは、「ふじのくに愛輪号（あいりんごう）」のことです。車いすのまま乗降できるリフトがついている大型バスです。運行管理は静岡県ボランティア協会で、運転は講習を受講され、登録されたボランティアさんが二名乗車で行います。新型コロナウイルスの感染拡大によりバスを利用する団体が減り、管理維持が困難になって残念ながら令和四年度をもって運行を終えるというお知らせでした。福祉団体や関連機関の他にも、東日本大震災等の災害時にもボランティアさんや支援物資をのせて走り続け、いろんな場面で活躍しました。つくしホームでは、運行が始まった当時から一泊旅行やバス遠足で毎回使わせていただいていました。旅行が大好きな利用者さんたちは、その日が近づくにつれ、みんなそわそわし始めました。何ヶ月も前から荷物の支度を作る、着てゆく服をあれこれ考える、旅行のプリントが配られると、行き交うバスを指さして大きな声で訴える、どこから探してきたのかこっそり目的地近辺の地図帳を持ってきたり、お母さんの大事なカラオケテープを持ってくる人もいたり…、と様々でした。私も運転ボランティアに登録させていただき、いろんな方と運転させていただく中で、運転技術だけでなくいろんなことを教えていただきました。嬉しいことに、一度運転してくれると次回も「つくしホームからの依頼だから、すぐに返事したよ」と申し込んでくれる方もいました。新しい愛輪号と古いバスの引継ぎ式後、幹線道路の真ん中でエンジンが止まり、数時間立ち往生している時に通りかかった自衛官の方が、あっという間に直してくれたこと、その際バス内にいた私たちに、快くトイレを貸してくださった近くのレストランやガソリンスタンドの方々の温かなお心遣い、真っ赤に染まる紅葉に声を上げた秋、もう3月だというのに雪が降り、相良では見たこともないような雪景色に言葉を飲み込んだ伊豆への旅行、ビルの大群や、色とりどりの電車が行き交う都会の景色に目を丸くしながら見ていた利用者さんたちの笑顔、深夜まで車の行き交う音に眠れない夜を過ごした都内での旅行…様々なハプニングや数えきれない思い出を、私たちの、そして利用した方々の心に残してくれました。バスに乗り込む時のみんなの楽し気な姿はいまだに忘れません。運行管理や維持、運転講習会等を、厳しい条件の中でも続けてくださった静岡県ボランティア協会と、いろんな道を走り続け、私たちを安全に運んでくれた愛輪号に、心より感謝いたします。ありがとう、そしてお疲れさまでした。

（つくしホーム施設長）



笑顔がいっぱい見られたら…

髙塚　美紀

　昨年五月から、つくしの家でお仕事をさせてもらい、あっという間に一年が経ちました。とってもかわいい子ども達の笑顔に、いつもパワーをもらっています。

　子ども達が登園し、朝の支度、朝の会、クラスごとの活動、給食、お昼寝。私は半日勤務のため、ここまでしか子ども達の様子を見ることができませんが、半日でも先生や子ども達のいろいろな声を聞くことができます。

　登園時には「おはよう！」「今日も元気ですね」「いってらっしゃい」朝の会では、お名前を呼ばれると「はい」とかわいいお返事。朝の歌、誕生日の子がいる日は、みんなで♪ハッピーバースデーのお歌のプレゼント。朝だけでも本当にいろいろな声を聞くことができます。

　活動や給食、おトイレの時間では「マル～！」という先生の声をよく耳にします。先生が「〇〇くん、〇〇ができたよ！」と言うと、まわりから「すごいね！」「かっこいい！」と、いろいろな声が聞こえてくる時もあります。職員室で聞いている私も、とってもうれしい気持ちになります。ついつい子どもの顔を見たくて席を立って様子を見に行ってしまうこともあります。褒められるとうれしそうにしている子ども達…。私は自分の子どもを褒めてあげていたのかなと反省してしまうこともありました。職員室には時々子どもが遊びに来てくれます。ニコニコ笑顔で入ってくる子、先生に教えてもらって「しつれいします」と言って入ってくる子、欲しい物をめがけて入ってくる子…、とってもかわいいです。本当に癒されています。

　こんなつくしの家でお仕事ができて本当に良かったと思っています。これからも、少しでもお役に立てたらと思います。

　私もまだまだ子育て真っ最中です。今までは仕事仕事で子ども達としっかり向き合えていませんでした。一番かわいかった頃のことをほとんど覚えていません。本当にバタバタした毎日だったんだと思います。だからこそ今は、反抗期の時期でうるさがられることもありますが、子ども達といっぱい話すようにしています。

　これからもつくしの家の子ども達、自分の子ども達の笑顔がいっぱい見られたらうれしいなと思います。今日は、誰が遊びにきてくれるかな？…、楽しみに職員室でパソコンに向かっています。

（つくしの家職員）

感謝です

坂本　敦子

　つくしホームに通い始めて希望（のぞみ）は七年経ちました。最近はたくさんお手伝いができるようになり、先生方に褒めてもらいながら日々成長しています。希望は知的障害です。言葉を話す事がうまくできません。「ねーね」や「ばーば」といった二語です。でも、こちらの言っている事はだいたいわかっています。自分で伝えたいことはサインで伝えます。細かな気持ちはわかってあげられないので、怒ることもしばしばあります。

　ここまで大きくなるまでにはいろんなことがあったと思います。私の中で忘れられない事があります。

　希望は三姉妹の真ん中です。妹が七つ下にいます。妹が生まれたばかりの頃、外で姉たちと遊んでいた希望が急いで帰ってきてトイレに入りました。私は妹の世話をしていたのでトイレに入った様子を見ていなかったのです。「あれ！」と思いトイレをのぞきに行ったら、トイレの中の壁、便器、トイレの下、廊下が便まみれ。希望の服もくつも…。気持ちに余裕のない私は希望をシャワーで洗いながら、「なんでこんな事するの！」と怒りながらおしりを叩いていました。私自身もワンワン泣きながら。

　つくしの家の親子教室でお世話になった栗林園長先生に電話をしていました。先生に私は「もうのんちゃんのお母さんをやめたいです。」と言ってました。先生は私のわけのわからない話を全て聞いてくれた後に、「のんちゃんは全部わかっているんですよ。のんちゃんのお母さんは、お母さんだけですよ。」と優しく言ってくれました。その言葉は何十年たった今でもはっきり覚えています。時間が経ってみると希望は自分で頑張ってやってくれたのがわかるのに私は何をしてたんだろうと思います。でも、その時は精一杯だったと思います。一番苦しくなった時、何も言わず聞いてくれた先生に感謝しかないです。

　子育てには正解がないので、これでいいのかと悩む事がいっぱいです。でも、そんな時にいつでも先生方が聞いてくれ、「大丈夫ですよ」って言ってくれます。希望は二十五歳になったけど、みんなで育ててくれたんだと思っています。

　のんちゃんは夕ごはんの時間が近づくとテーブルの上に家族のおはしをきれいに並べてくれます。今日もおはしが並んでいます。並んだおはしを見ると気持ちが温かくなります。これからものんちゃんの笑顔がいっぱいみられるように家族みんなで仲良く楽しく過ごしていきます。

　最後にいつも優しく根気良く接してくれる先生方に本当に感謝しています。これからも親子共々よろしくお願いします。

（つくしホーム保護者）

ご挨拶

令和元年十二月に中国湖北省武漢市の海鮮卸売市場で原因不明の肺炎が集団発生したことから始まり、株の変異を繰り返しながら世界的に大流行に至った新型コロナウイルス感染、三年半が経ちようやく五月八日から感染症法上の位置づけが季節性インフルエンザと同様の五類に引き下げられました。この間、マスクの着用や手指や室内の消毒、毎朝の検温、三密を避けるなどの対応をはじめ、当たり前のように続けてきた行事を見直したり、近隣の園や学校、感染状況などにより、その都度ご家族の皆様にも連絡させていただいたり、ご協力をいただくこともありました。今回、五類に引き下げられることは、うれしいことですが、具体的にこれからどんなことに気をつけたらいいのか、どこまで広げていって大丈夫なのか、まだまだ不安は残ります。

また、ロシアによるウクライナへの侵攻も昨年の二月に始まり一年以上が経過しても未だおさまってはいません。歴史ある街の建物、生活の場所が次々と破壊され、農業や産業にも大きな影響が出ています。侵攻が終わり、一日も早く復興に向かうことを祈らずにはいられません。皆様、いかがお過ごしでしょうか。

この春、つくしの家には二歳から四歳の七人の新しいお友達が入園。二十九人の子ども達と九人の親子教室のお友達で、つくしホームは一人が加わり、十九歳から七十五歳までの二十二人の利用者さんでそれぞれの新しい一年が始まりました。敷地内に並ぶ二つの園舎の開けた窓からにぎやかな声や歌が聞こえてきます。

前回のおたよりを出させていただいた昨年暮れに、一本の電話が入りました。これまでずっと長くつくしを応援して下さった埼玉県にお住まいの方からでした。今年八十歳になられ、後援会は終わりにさせていただきたい、とのことでした。受話器の向こうからつくしへの思いをお話下さいました。「五十年前に息子が交通事故に遭い、重い身体障害になりました。そして六歳になる前に亡くなりました。先日五十回忌を済ませました。毎年二回届くお便りの表紙の、つくしに通われているお子さんの写真を見ながら、いつも息子を思い出していました」…と。お会いしたことはないと思います。ここに来られたこともたぶんないと思います。でもこうして本当に長い間、つくしにお心を寄せて下さったことに改めて感謝し、受話器を置かせていただきました。

つくしのホールの中では、新しく入った子ども達も、二か月が経ち、一人で過ごす時間が伸びてきました。初めての給食やお昼寝、午後の活動も始まりました。これから続く一日一日を大切に、ゆっくりゆっくりみんなで歩いて行きたいと思います。

令和四年度の後援会決算を感謝をもってご報告させていただきます。これから梅雨の時期を迎えます。皆様のご自愛を心よりお祈り申し上げご挨拶とさせていただきます。

令和４年度 心身障害児通園施設つくしの家 後援会　決算報告書

収入金額	2,252,205 円
支出金額	4,702,352 円
差引金額	-2,450,147 円

（不足分は繰越金より補填）

収入の部

科　目	金　額	説　明
1 寄附金収入	2,252,140	246 口
2 雑収入	65	預金利子
合　計	2,252,205	

支出の部

科　目	金　額	説　明
1 事業費支出	402,352	
(1) 一般物品費	5,280	事務用品代
(2) 印刷製本費	140,800	たより108号、109号
(3) 役務費	252,092	払込料金、たより発送代
(4) 雑　費	4,180	残高証明手数料
2 繰入金支出	4,300,000	
(1) 本部会計繰入金支出	4,300,000	
3 雑支出	0	
(1) 雑支出	0	
合　計	4,702,352	

取扱金融機関のご案内

三菱ＵＦＪ銀行静岡支店
普通　4254072
口座名　つくしの家後援会
（以下同じ）
静岡銀行相良支店
普通　145949
島田掛川信用金庫相良支店
（旧島田信用金庫）　普通　134511

郵便振替
00820－5－57983
口座名　心身障害児通園施設
つくしの家後援会

つばさ

◆つくしの家のあゆみ

十一月　◎島田法人会女性部相良支部の皆さんが窓ふきをして下さり、日赤奉仕団相良分団の皆さんからはタオル等をいただきました。◎市内の結婚式場うおとも様より、福祉施設の招待食事会がコロナ禍でできない代わりにと、昼食のデリバリーをして下さいました。◎交通安全協会の指導員さん達による「交通安全教室」を行いました。◎地震・津波避難の為、避難車を一台追加購入しました。東館学習室のエアコンが故障した為、新しい物に交換しました。

十二月　◎おはなし会、読み聞かせグループ「グランマ」さんが、大型絵本や紙芝居を見せてくれました。◎障害者週間で、今年もお世話になった方々に子ども達が作った来年のカレンダーを届けました。◎つくし東館の壁紙の張替えを行いました。◎つくしホームの森賀さんのお宅からビオラの苗をいただき、チューリップの球根と一緒に子ども達がプランターに植えました。◎今年も子ども達とクリスマス会をしました。ゲーム、歌、職員の演奏と劇、昼食を楽しみました。今回も結婚式場うおとも様のサンタさんが登場！子ども達にプレゼントをいただきました。

一月　◎あおぞら保育園の松下園長先生より、牛乳パックで作ったイスをいただきました。◎今年もみんなで書き初めをしました。筆やペンを持ってそれぞれの思いを書きました。今回も全員「金賞」でしたね。

二月　◎牧之原小学校の皆さんからアルミ缶回収の収益で、トランポリンと粘土をプレゼントして下さいました。◎シルバー人材センターさんにお願いして、園庭の植え込みの剪定をしていただきました。とってもきれいになりました。

三月　◎保護者会よりご寄付をいただき、おもちゃを購入しました。楽しく遊びたいと思います。◎四十年間勤務して下さった主任の小栗朋子先生が年度末で退職となりました。たくさんの思い出をありがとうございました。◎十一人のお友達が卒園し、新しい道に歩き出しました。

四月　◎吉田町保健センター様より、子ども達に大型絵本とクレヨンを頂きました。大切に使わさせていただきます。◎七人の新しいお友達を迎えて入園式を行いました。二十九人の子どもと九人のこぐま教室（親子教室）のお友達で、新しい一年がにぎやかにスタートしました。

◆つくしホームから

11月　☆うおとも様より、「うおとものお料理と思いのデリバリー」と題して、お料理を届けていただきました。コロナ感染防止の為いろんな事が中止される中、おいしいお料理とお土産までいただき、心より感謝します。☆島田法人会相良支部の皆さんが今年も窓ガラスをきれいにしてくださいました。心もピカピカになりました。ありがとうございます。☆静岡県障害者スポーツ協会の指導員さんが「ボッチャ」を教えてくれました。ひとりひとり自分のやり方で楽しむ事が出来ました。☆日赤奉仕団の皆様から今回もタオルなどをいただきました。利用者さんのために有効に使わせていただきます。

12月　☆お世話になった方々に、手作りカレンダーを届け、1年の感謝を伝えました。☆クリスマス会、利用者さんのところにはサンタさんがプレゼントを持ってきてくれました。みんなでゲームをしたり踊ったりして楽しい時を過ごしました。☆グループ外出、「せせらぎ」グループは小堤山公園、「つばめ」グループは港で海を見たりしてドライブを楽しみました。

1月　☆書初め。自分の思いをしたため、個性あふれる作品が出来上がりました。☆今年は、高須丈さん、尾白蒼心さん、石川友翔さんの3名が成人式を迎えました。各自にお祝いのカードが贈られました。これからも素敵な仲間と楽しい時間を過ごしてゆきましょうね。

2月　☆豆まき。今年1年明るく元気に過ごせるように願いました。☆平井絵梨支援員が退職しました。

3月　☆ひなまつり会。今回はボール送りリレーを楽しんだ後、お雛様とお内裏様の大きな塗り絵に色を塗り、可愛い作品を作りました。☆萩間小学校児童会の皆様よりアルミ缶回収の収益を寄付していただきました。大切に使わせていただきます。

☆山田恵美子支援員、小林浩江支援員が退職しました。☆今年度も静岡県よりたくさんのマスクとビニール手袋をいただきました。

4月　☆レクレーションで輪投げ大会を行いました。久しぶりでしたが、みんな張り切って参加して楽しい時間を過ごしました。☆食事会は出前注文。ちょっとリッチなお昼ご飯を食べて皆満足でした。

編集後記

今日もいい天気…つくしの家の園児たちがみんな揃って散歩に出かけます。その園児たちを見守る様につくしホームの利用者さんたちが数人ずつ歩いて行きました。地域の方々と挨拶や会話を交わし、時には花や種を分けてくださることもあります。マスク越しではなく、お互いの表情が見え、気持ちが伝わる時が早く来ることを願っています。